

積立投資のヒント



野村アセットマネジメント

商号：野村アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第373号

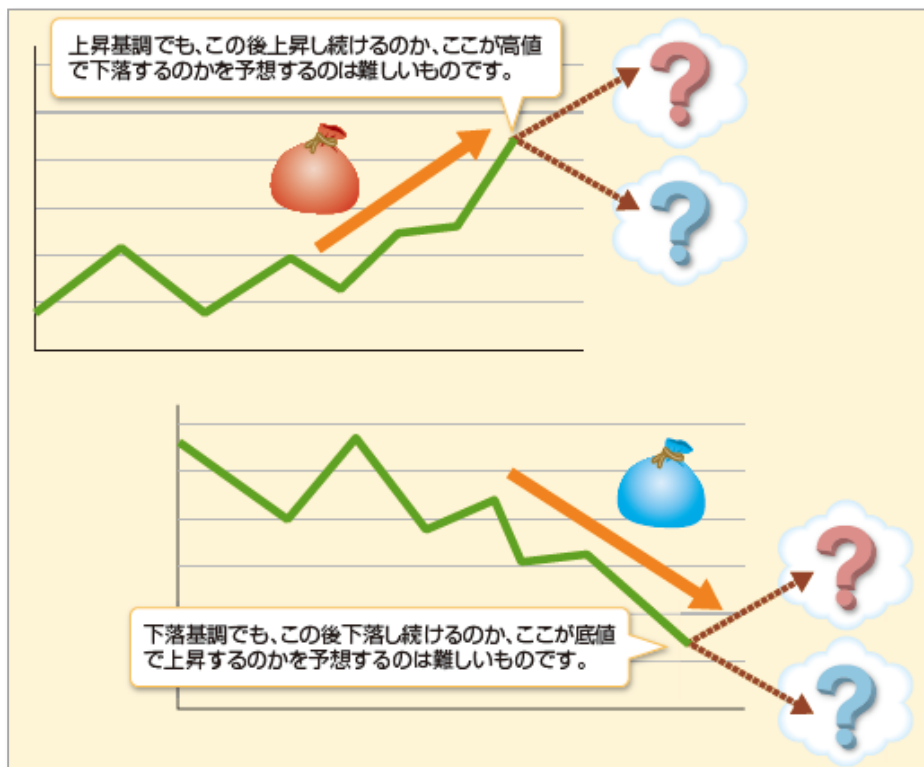
加入協会： 一般社団法人投資信託協会／

一般社団法人日本投資顧問業協会／

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

投資のタイミングの分散

投資をする際は、「安いときに買って、高いときに売りたい」ものですが、ピークや底がどこなのか判断するのは困難です。そこで、一括投資の他にタイミングをずらして投資を続ける「積立投資」という投資方法があります。



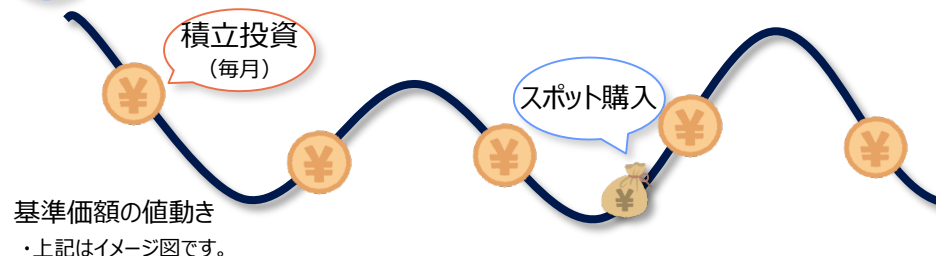
1 積立投資

- 「未来のお金」を活用
- ポイントは「口数」
- 期間重視

2 一括投資

- 「今あるお金」を活用
- ポイントは「基準価額」
- タイミング重視

3 積立投資をベースにスポット購入



(出所) 星野泰平著『半値になっても儲かる「つみたて投資」』を参考に野村アセットマネジメント作成

上記は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

積立投資のポイント

積立投資とは、一度にまとまったお金を投資するのではなく、毎月コツコツ積み立てる投資方法です。また、自動的に毎月引き落とされる等、手間をかけることなく、長期的・継続的に投資を続けられます。

POINT

1



少額から積立金額を設定できる。

毎月決められた日に一定額を積み立てるので、一度にまとまったお金を投資することに迷いを感じる、という方も無理なく自分のペースで長期的に資産を作っていくことができます。

POINT

2



定期的に購入できる。

「預金口座等からの自動振替」などの簡便な方法で、毎月一定額を自動的に積み立てるため、「こまめに購入する時間がない」という忙しい方や、「手もとにお金があるとつい使ってしまう」という方にもピッタリです。また、投資タイミングについても悩む必要がありません。

POINT

3



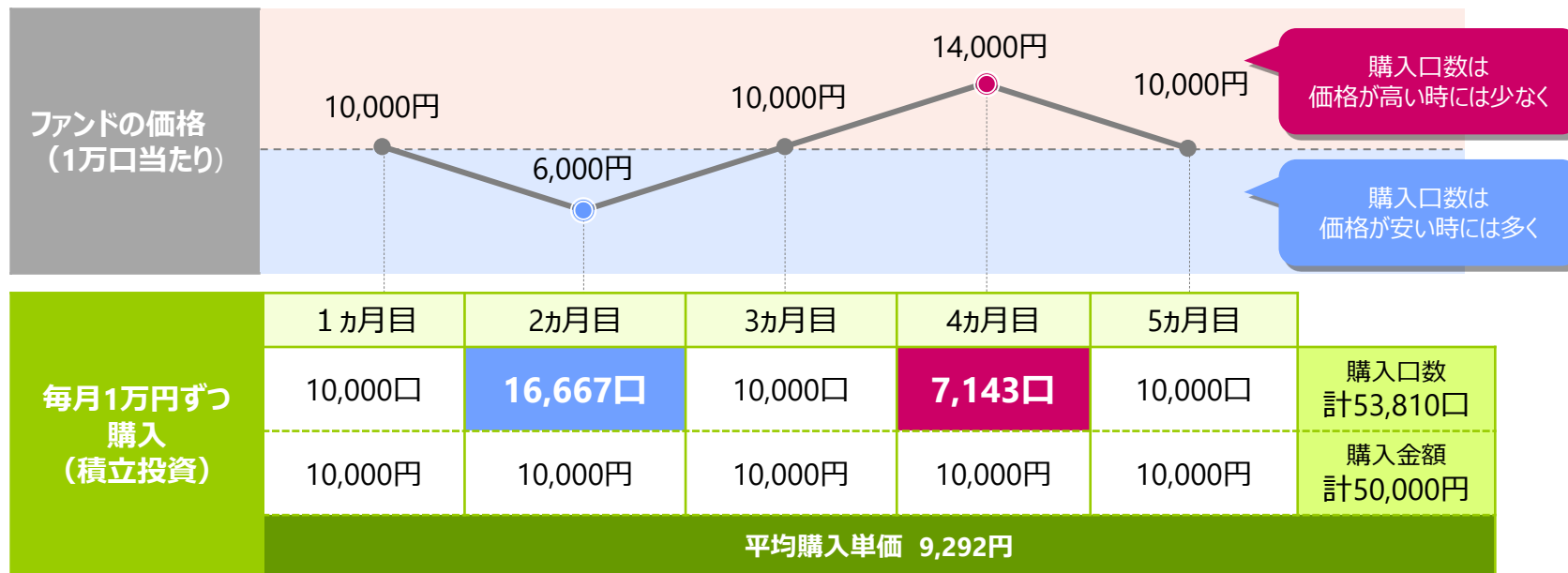
時間分散によるリスク低減が期待できる。

毎月1回など、一定期間ごとに買付けるため、自動的に時間分散を実現できます。価格が変動する商品に一定金額の投資を続けることで、価格が高いときには数量を少なく、価格が安いときには数量を多く購入することが可能です。（ドル・コスト平均法）

- ・上記のポイントは一例であり、全てを網羅しているわけではありません。
- ・当資料では、積立を「定期的に一定金額を同一の金融商品に対して継続的に投資していく方法」とします。

口数に注目

価格が上下に変動する商品は、購入額が一定の場合、その時の価格により購入できる数量が変わります。
いくらで購入するかという「価格」ではなく、「口数」について意識してみましょう。



	1ヵ月目	2ヵ月目	3ヵ月目	4ヵ月目	5ヵ月目	
5万円で 一括購入 (一括投資)	50,000口	→				購入口数 計50,000口
	50,000円	→				購入金額 計50,000円

上記は定額購入の一例であり、実際の値動き等を示すものではありません。口数の計算では小数第1位を切り上げ、平均購入単価の計算では小数第1位を四捨五入して算出しています。また、計算過程において税金・手数料等は考慮しておりません。実際の算出とは異なります。

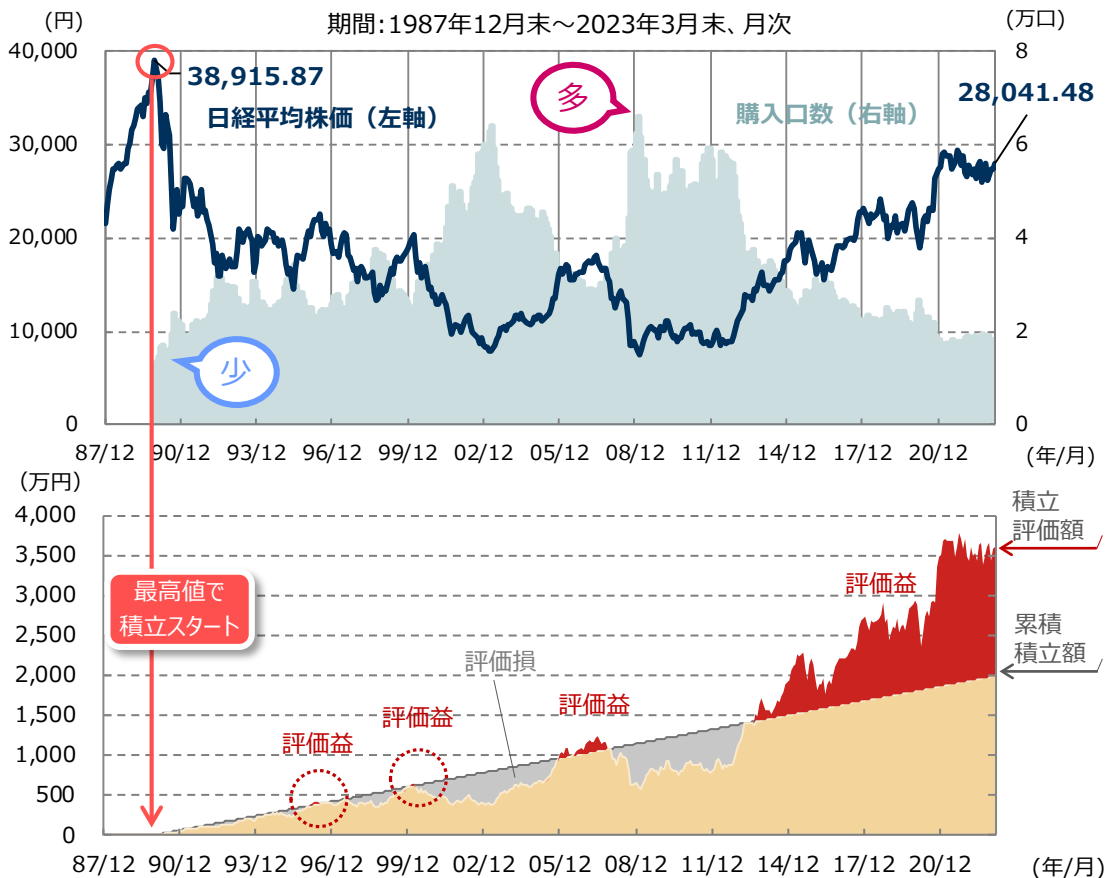
(作成) 野村アセットマネジメント

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

積立投資の効果：日経平均株価でシミュレーション

一括投資の場合、投資開始時点の価格で購入口数が決まります。積立投資の場合、各積立時の価格で購入口数が変わります。日経平均株価が最も高かった時から積立投資を行なった場合でも、利益が発生する期間がありました。

日経平均株価と積立評価額の推移：毎月5万円ずつ積立



バブルのピーク（89年12月末）に投資開始した場合

2023年3月末現在

購入口数

<p>勝</p> <p>積立投資</p> <p>累積積立額：2,000万円 (5万円×400ヵ月)</p> <p>約1,316万口</p>	<p>一括投資</p> <p>投資額：2,000万円 (累積積立額と同額と仮定)</p> <p>約514万口</p>
---	---

評価額

<p>勝</p> <p>積立投資</p> <p>約3,690万円</p>	<p>一括投資</p> <p>約1,441万円</p>
--	------------------------------------

・上記は過去の市場指数を基に野村アセットマネジメントが算出したシミュレーション結果であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。算出過程で取引コスト等は考慮していません。

・市場指数そのものに投資することはできません。基準価額＝日経平均株価と仮定し、当初元本1口＝1円として口数を計算しています。

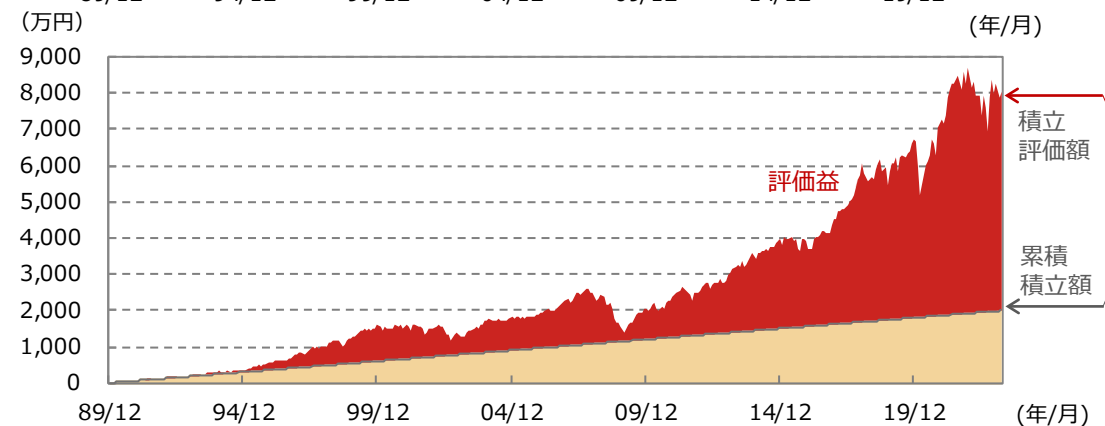
(出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。

積立投資の効果:NYダウ平均株価でシミュレーション

下記はNYダウ平均株価に投資した場合です。同期間では、NYダウ平均株価は上昇基調にあり、積立投資よりも一括投資の方が良い結果となりました。

NYダウ平均株価と積立評価額の推移：毎月5万円ずつ積立



日本のバブルのピーク (89年12月末) に投資開始した場合

2023年3月末現在

購入口数

積立投資
 累積積立額：2,000万円
 (5万円×400ヵ月)
約2,421万口

勝 一括投資
 投資額：2,000万円
 (累積積立額と同額と仮定)
約7,264万口

評価額

積立投資
約8,055万円

勝 一括投資
約24,171万円

・上記は過去の市場指数を基に野村アセットマネジメントが算出したシミュレーション結果であり、将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。算出過程で取引コスト等は考慮していません。
 ・市場指数そのものに投資することはできません。基準価額＝NYダウ平均株価と仮定し、当初元本1口＝1円として口数を計算しています。
 (出所) ブルームバーグのデータを基に野村アセットマネジメント作成

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

積立投資の3つのキーワード

投資の常識「安く買って、高く売る」に縛られず、積立投資の効果を確認してみましょう。

KEYWORD①

値下がり時、買い増し

KEYWORD②

投資タイミングにとらわれない

KEYWORD③

継続は力なり

・上記のキーワードは積立投資の一例であり、全てを網羅しているわけではありません。

KEYWORD①

値下がり時、買い増し

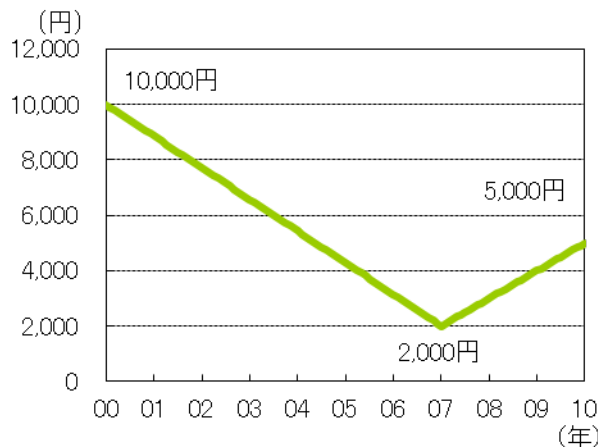
一括投資の場合、価格が投資開始時の水準を上回らなければプラスになりません。

しかし、積立投資の場合、価格が一時的に下落しても、「ある水準」まで戻れば、プラスとなります。

値下がり時に買い増すことで口数を増やすことができ、平均購入単価が下がったため、その後の上昇で利益が出やすくなります。この「回復力」は、積立投資の特徴と言えます。

問1

下記のような値動きの金融商品に、毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、10年後の積立評価額はいくらになるでしょうか？



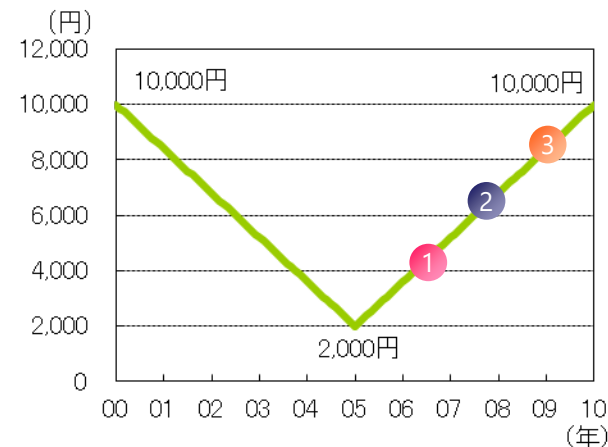
① 約72万円

② 約90万円

③ 約139万円

問2

下記のような値動きの金融商品に、毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、積立評価額が投資総額を上回り、プラスになるのはいつでしょうか？



① 6年6か月目

② 7年8か月目

③ 9年目



目録① : 139万円 目録② : 90万円 目録③ : 72万円

(出所) 星野泰平著『半値になっても儲かる「つみたて投資」』を参考に野村アセットマネジメント作成

上記は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

KEYWORD②

投資タイミングにとらわれない

「安く買って、高く売る」というタイミングをとらえる投資は難しいようです。

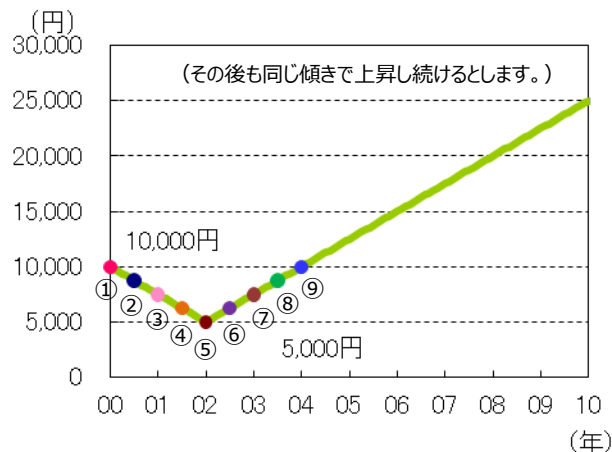
積立投資の場合、投資タイミングを悩む必要がありません。「積立回数分の1」のインパクトしかないからです。

将来の値動きは分からないので、早くスタートして口数を増やすことは重要です。



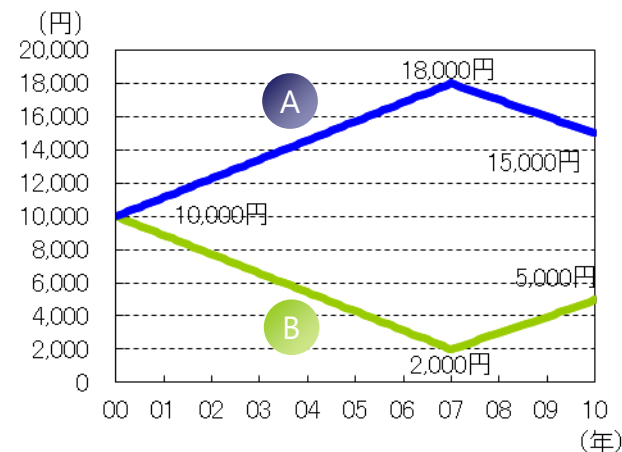
問3

下記のような値動きの金融商品に、半年ごとにスタート時期をずらしながら、毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、左から何番目の●印からスタートするのが最も成績がよかったですでしょうか？



問4

下記のような値動きの金融商品に、それぞれ毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、10年後の積立評価額が多くなるのはどちらでしょうか？



解答3：② (2、3、1、4、5、6、7、8、9) 解答4：B (Aは約126万円、Bは約139万円)

(出所) 星野泰平著『半値になっても儲かる「つみたて投資」』を参考に野村アセットマネジメント作成

上記は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

KEYWORD③

継続は力なり

積立投資の場合、積立スタート時とゴール時の価格が同じでも、途中の値動きによって、購入できる口数に差が出てきます。

積立期間中に、いかに口数を増やすことができるかがポイントになります。

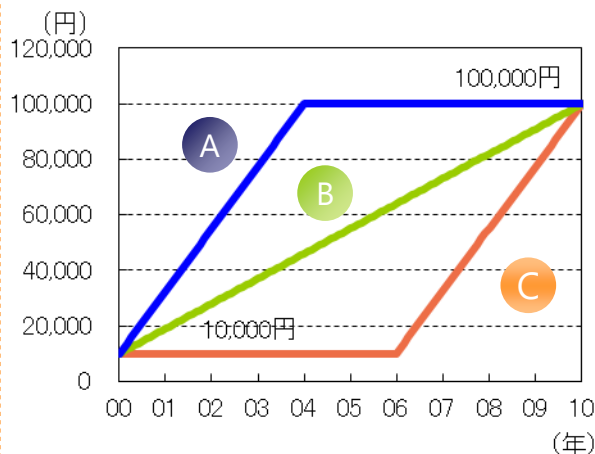
また、継続すれば口数は貯まるため、積立期間も重要となります。

ヒント 積立の公式

$$\text{積立評価額} = \text{口数} \times \text{基準価額}$$

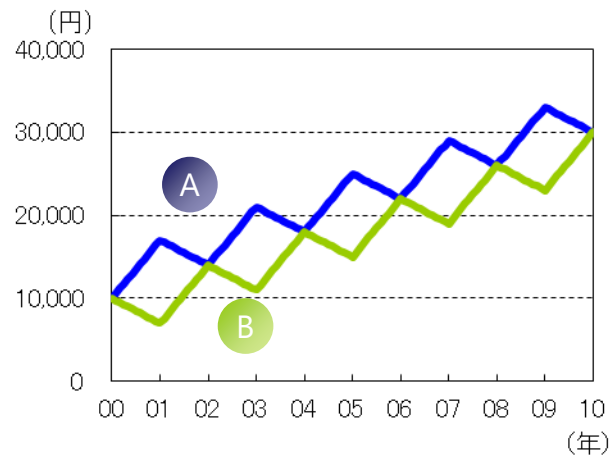
問5

下記のような値動きの金融商品に積立を行なった場合、早く上昇したA、一定の角度で上昇したB、最後に上昇したC、のうち利益が多い順番に並べてください



問6

下記のような値動きの金融商品に積立を行なった場合、10年後の利益が多くなるのはどちらでしょうか？



問5: C→B→A 問6: A

(出所) 星野泰平著『半値になっても儲かる「つみたて投資」』を参考に野村アセットマネジメント作成

上記は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

注意

積立効果が
期待できない場合も

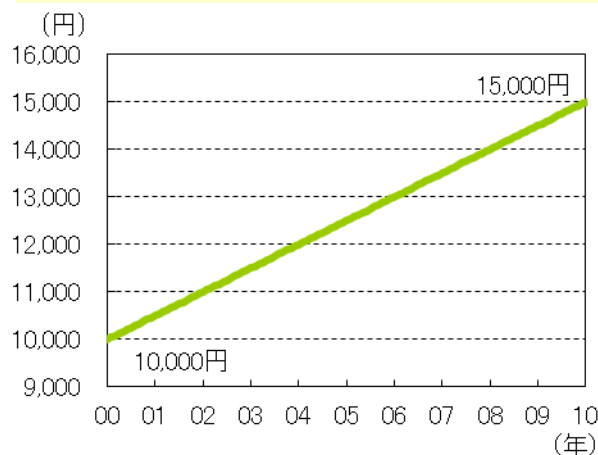
価格が一方向に上がるとすれば、安いうちに一括で購入した方が良い結果になります。

また、値上がりしたあとに下落し、元に戻ってしまったら、積立投資の場合は、損になってしまいます。

積立の効果が出ない場合もあることには、注意が必要です。

問7

下記のような値動きの金融商品に、毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、10年後の積立評価額はいくらになるでしょうか？



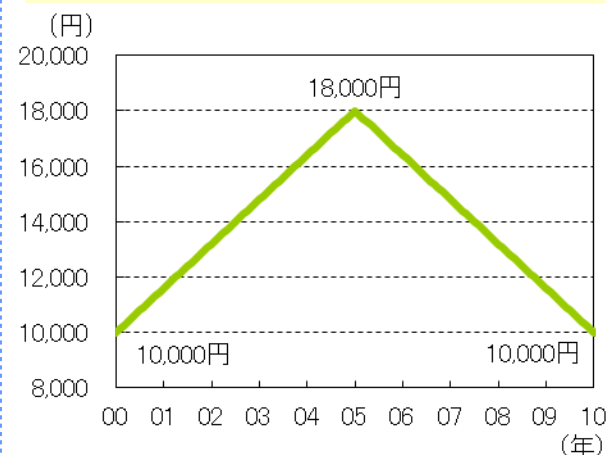
① 約130万円

② 約146万円

③ 約180万円

問8

下記のような値動きの金融商品に、毎月1万円ずつ10年間積立を行なった場合（投資総額120万円）、10年後の積立評価額はいくらになるでしょうか？



① 約59万円

② 約88万円

③ 約102万円

問7：②約146万円 問8：②約88万円

(出所) 星野泰平著『半値になっても儲かる「つみたて投資」』を参考に野村アセットマネジメント作成

上記は将来の投資成果を示唆あるいは保証するものではありません。

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しない保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。

野村アセットマネジメントからのお知らせ

■ ご注意

下記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、野村アセットマネジメントが運用するすべての公募投資信託のうち、投資家の皆様にご負担いただく、それぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前によく投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をご覧ください。

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資一単位当たりの価格が変動します。したがって投資家の皆様のご投資された金額を下回り損失が生じることがあります。なお、投資信託は預貯金と異なります。また、投資信託は、個別の投資信託毎に投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

以下の費用の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

2023年4月現在

ご購入時手数料 《上限3.85%（税込み）》	投資家が投資信託のご購入のお申込みをする際に負担する費用です。販売会社が販売に係る費用として受け取ります。手数料率等については、投資信託の販売会社に確認する必要があります。 投資信託によっては、換金時（および償還時）に「ご換金時手数料」等がかかる場合もあります。
運用管理費用（信託報酬） 《上限2.222%（税込み）》	投資家はその投資信託を保有する期間に応じてかかる費用です。委託会社は運用に対する報酬として、受託会社は信託財産の保管・管理の費用として、販売会社は収益分配金や償還金の取扱事務費用や運用報告書の発送費用等として、それぞれ按分して受け取ります。 * 一部のファンドについては、運用実績に応じて報酬が別途かかる場合があります。 * ファンド・オブ・ファンズの場合は、一部を除き、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬等が別途かかります。
信託財産留保額 《上限0.5%》	投資家が投資信託をご換金する際等に負担します。投資家の換金等によって信託財産内で発生するコストをその投資家自身が負担する趣旨で設けられています。
その他の費用	上記の他に、「組入価値証券等の売買の際に発生する売買委託手数料」、「ファンドに関する租税」、「監査費用」、「外国での資産の保管等に要する諸費用」等、保有する期間等に応じてご負担いただく費用があります。運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断下さい。

【当資料で使用した指数について】●「日経平均株価」に関する著作権、知的所有権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。日本経済新聞社は、日経平均株価の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。●「Dow Jones Industrial Average」（ダウ・ジョーンズ工業株価平均）はS&P Dow Jones Indices LLC（「SPDJI」）の商品です。Standard & Poor's®およびS&P®はStandard & Poor's Financial Services LLC（「S&P」）の登録商標で、DJIA®, The Dow®, Dow Jones®およびDow Jones Industrial Average®はDow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の商標であり、これらの商標を利用するライセンスがSPDJIに付与されています。

当資料は、参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。